

これからの教育の多様性について考えよう
～外国由来の子どもたちの教育から～

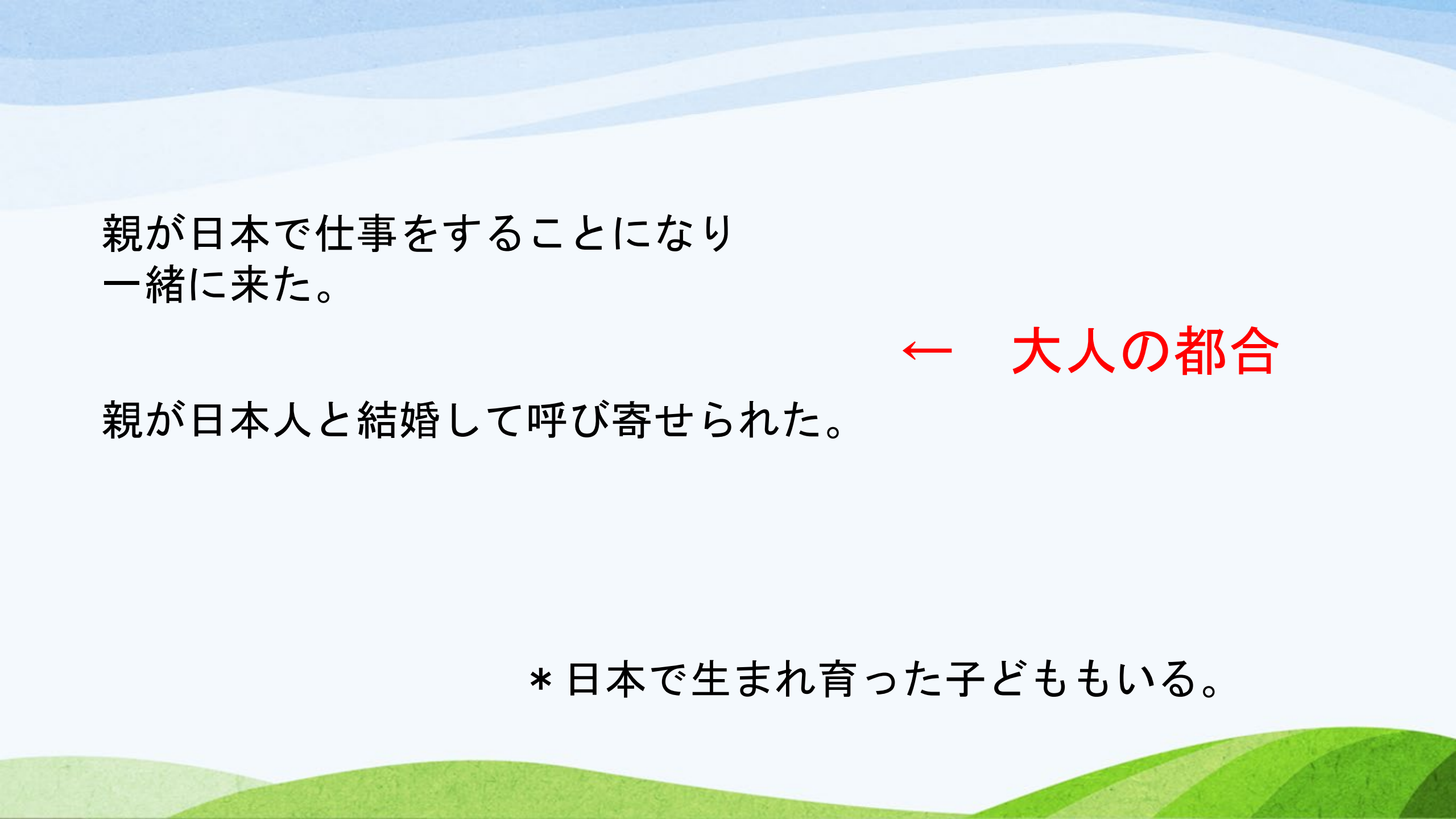


外国由来の子どもたち その現状と背景





なぜ日本に来たの？



親が日本で仕事をすることになり
一緒に来た。

← 大人の都合

親が日本人と結婚して呼び寄せられた。

* 日本で生まれ育った子どももいる。



なぜ「外国由来」と言うの？

「国籍」…両親が外国人→外国籍／両親のどちらかが日本人→日本国籍も

- ・ 外国籍だけど、日本で生まれ育った。
- ・ 日本国籍だけど、外国で育った。
- ・ 日本で生まれたけど、両親の母国と日本を行ったり来たりしている。
etc.

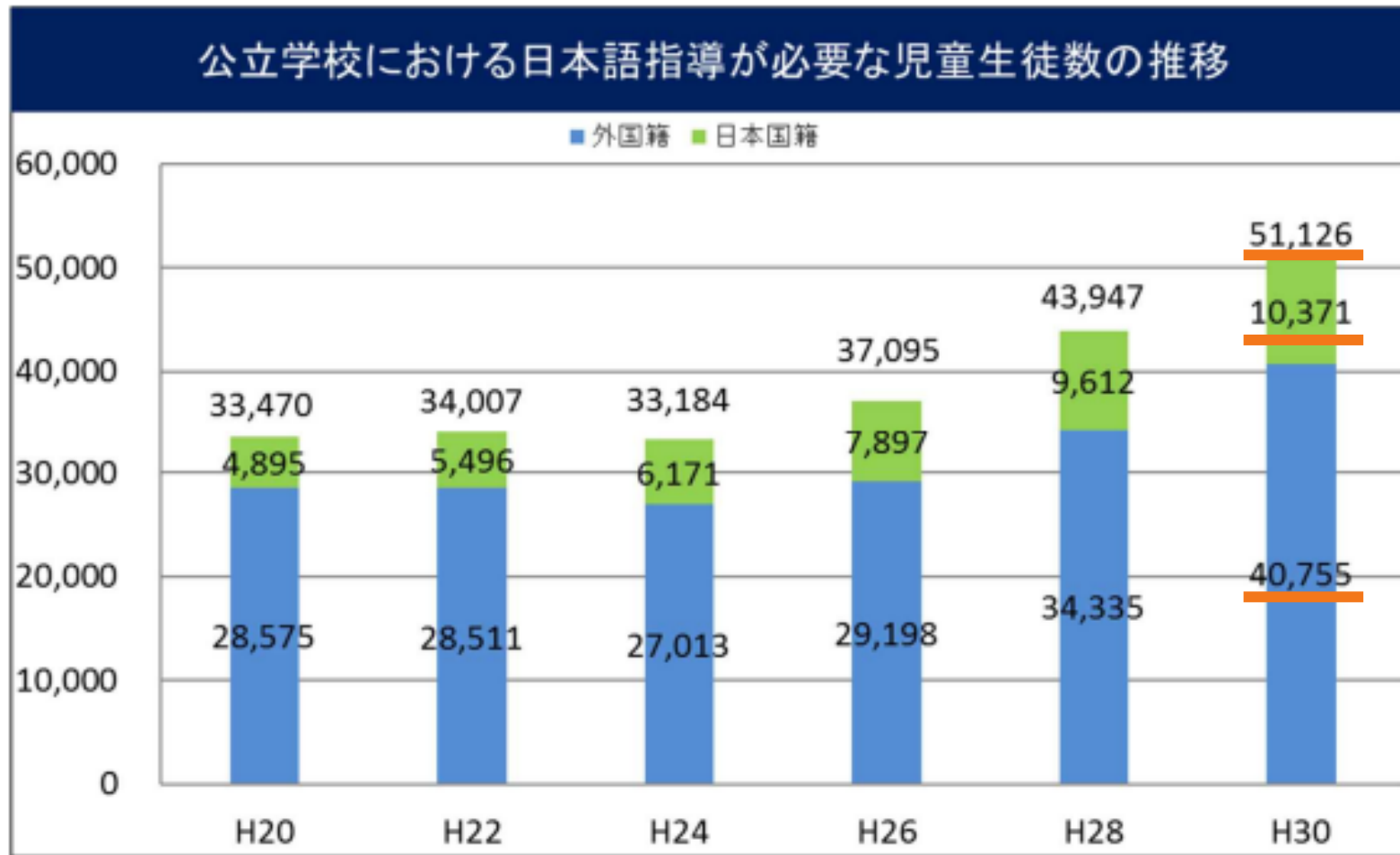
「外国籍の子ども」では もれるケースがある
「国籍や出生地で単純に くくれない

- ・ 外国由来の子ども
- ・ 外国にルーツのある子ども



外国由来の子どもは日本に
どれくらいいるの？

日本語指導が必要な児童生徒の数の推移



* 外国人児童生徒数
93,133人

外国籍・日本国籍ともに
明らかな増加傾向

「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」文科省 より

日本語指導が必要な児童生徒の数の推移



* 外国人児童生徒数
93,133人

10年前とくらべて...

- 外国籍児童生徒 1.4倍
- 日本語指導が必要な日本国籍児童生徒 2.1倍

「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」
文科省 より



何の数字でしょう？

	中退率
日本語指導が必要な高校生等	9.6%
全高校生等	1.3%


 およそ7倍

(特別支援学校高等部は除く)

	進学率
日本語指導が必要な高校生等	42.2%
全高校生等	71.1%

文科省調査より

	非正規就職率
日本語指導が必要な高校生等	40.0%
全高校生等	4.3%


 およそ
10倍

(全日制・定時制・通信制高校及び中等教育学校後期課程のみ)

	進学も就職もしていない
日本語指導が必要な高校生等	18.2%
全高校生等	6.7%

文科省調査より



「日本語指導が必要な子ども」って？

① 日本語で日常会話が十分にできない。（生活言語の不足）

② 日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じている。

「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」文科省 より

生活言語 と 学習言語

- 生活言語…日常生活の場面で使う言葉
あいさつや友だちと会話する時など。話し言葉。
身に付けるのに 約 1 ～ 2 年
- 学習言語…学習の場面で使う言葉
教科書を読んで内容を理解する、解答や文章を書くための言葉。
思考、分析、推測など抽象的な理解力が求められる。
身に付けるのに約 5 ～ 7 年 （9 年という説も）

例) 漢字熟語…「調べる」と「調査」／「育てる」と「栽培」
「食べ物」と「食料」



「日本語指導」をどこで、誰がするの？

学校に日本語
教室がある

正規の授業扱い
になる/ならない

「特別の教育課程」
の有無 →

専門知識の有無 →

先生
学校の

集中教室
拠点校

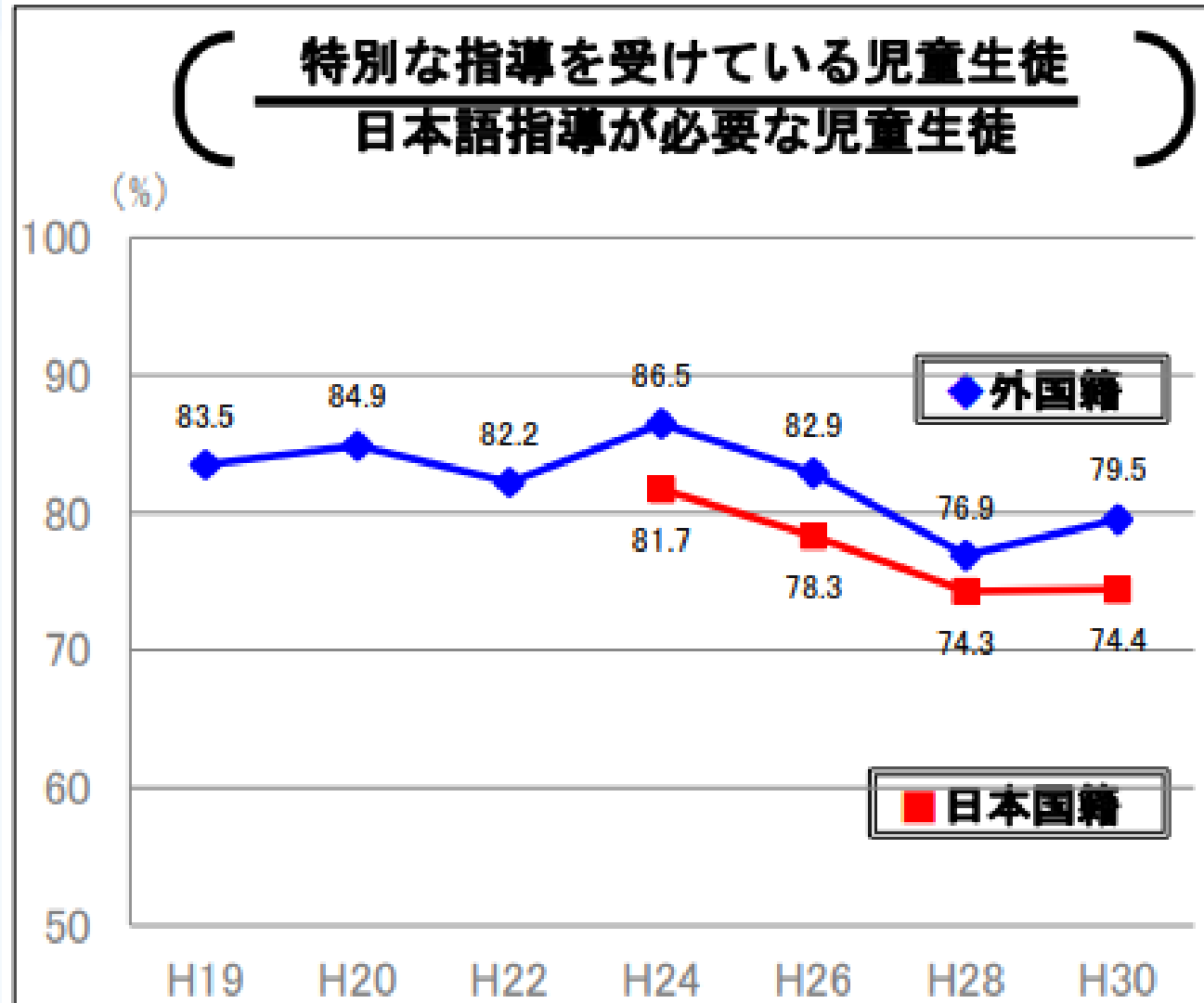
ボランティア

NPOなど専門団体

学校に日本語
教室がない

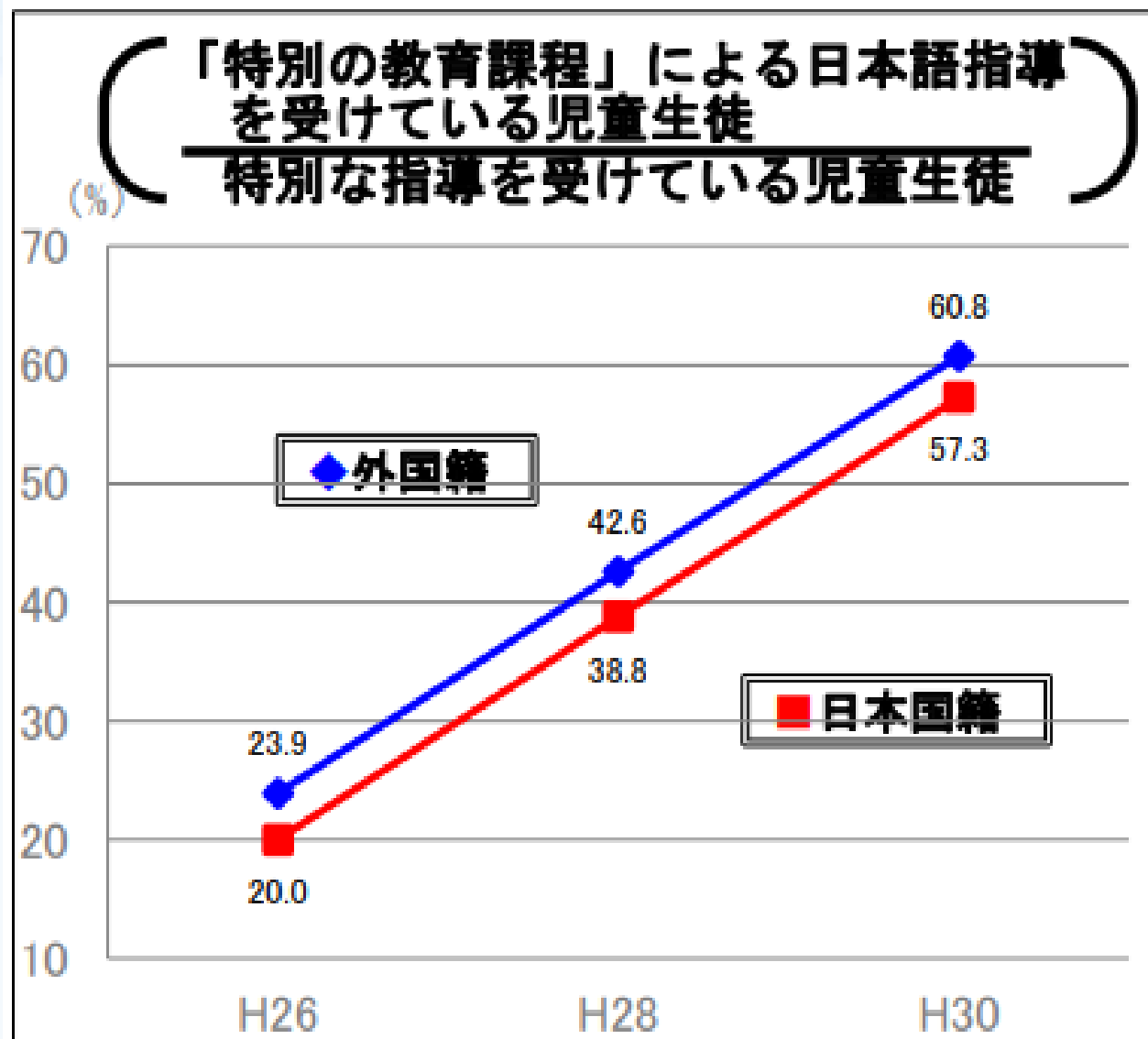
地域の
日本語教室

学校で何らかの日本語指導を受けている子ども→ 8 割弱



文科省調査より

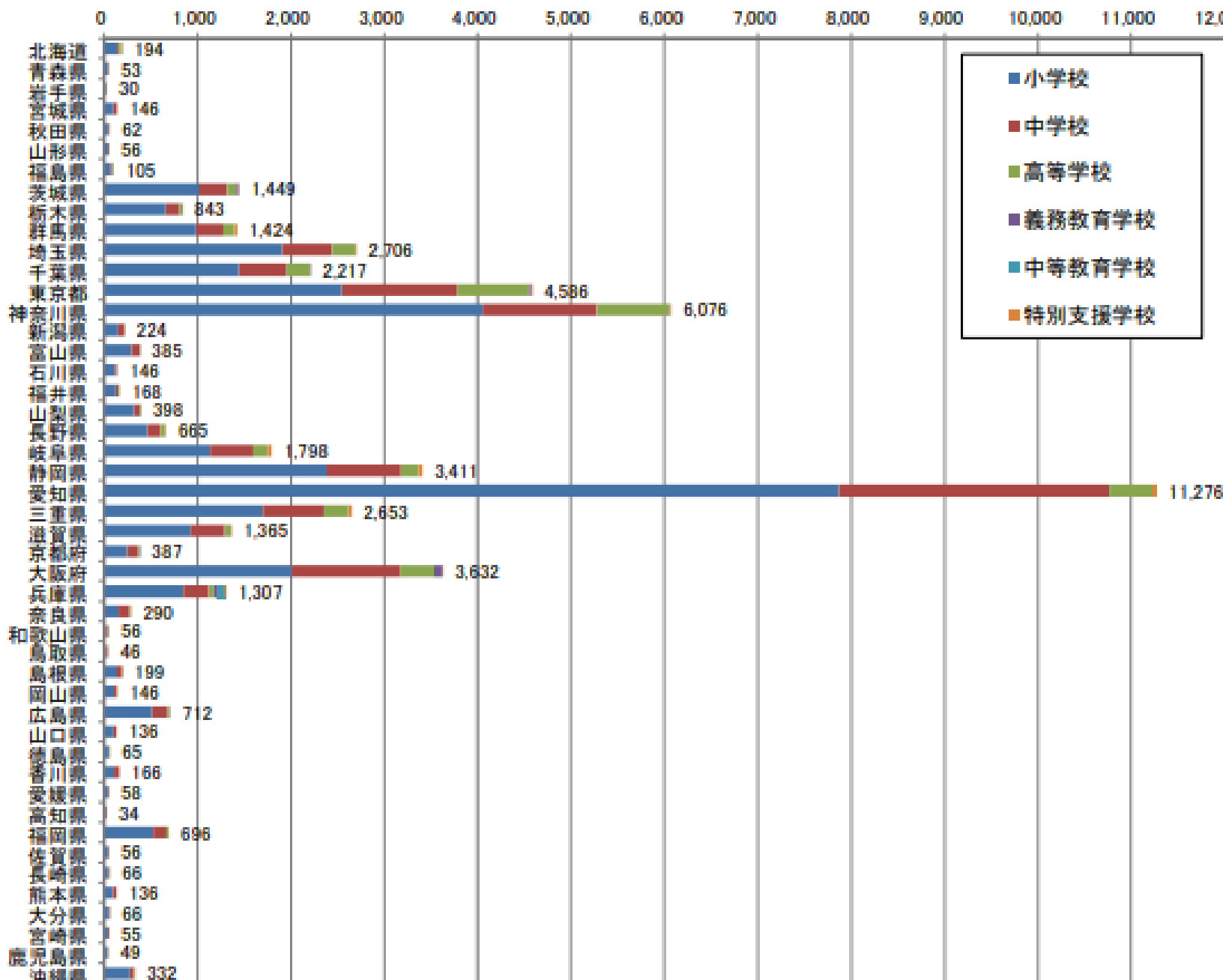
学校で「授業」として日本語指導を受けている子ども→ 6割前後



文科省調査より

日本語指導が必要な児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）※日本国籍・外国籍合計

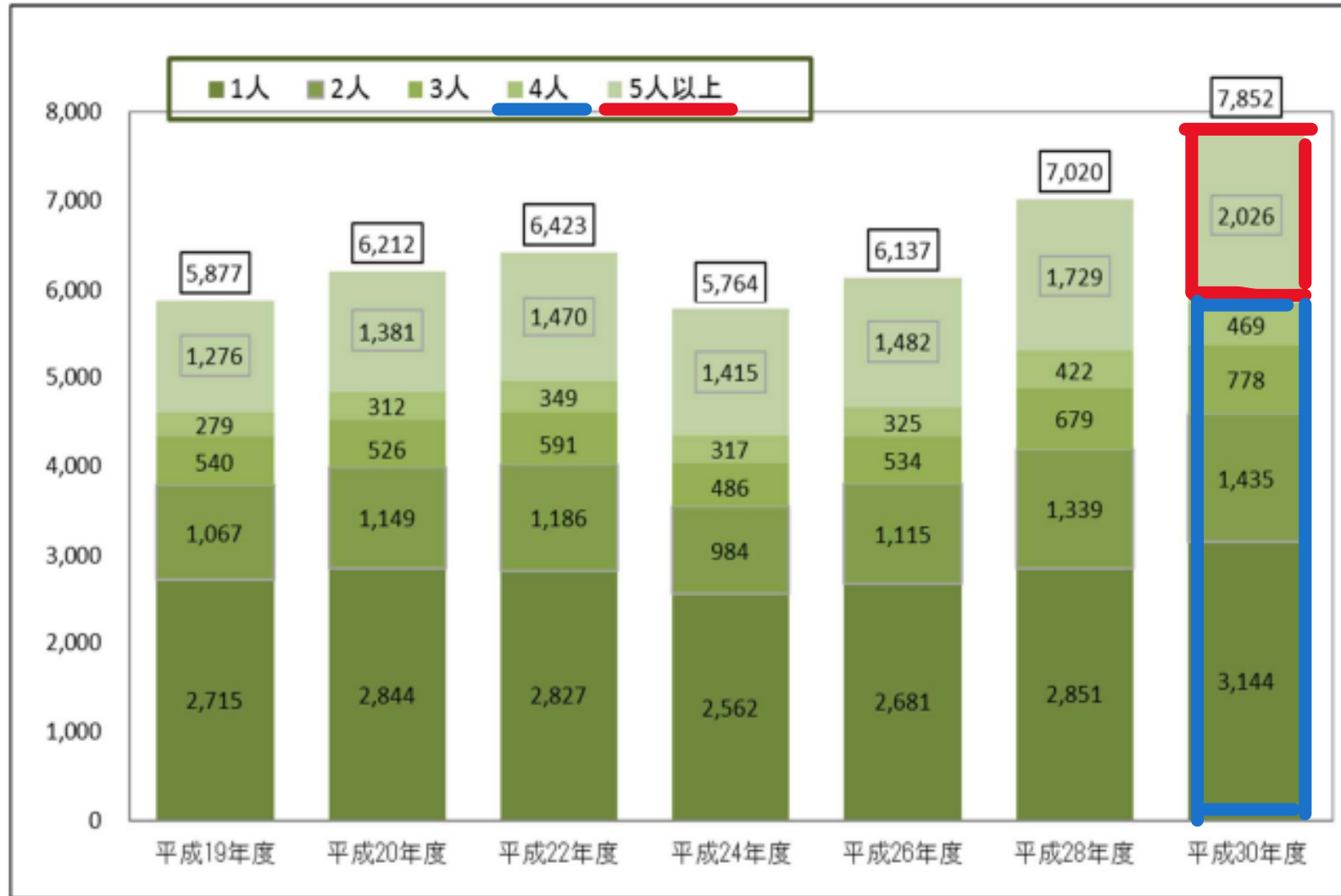
（児童・生徒数：人）



「集住地域」
と
「散在地域」
ばらつきがある。

文科省調査より

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の在籍人数別学校数



学校に5人以上在籍の学校は
全体の3割以下



- ・実感としては多くない
- ・必要な人員を配置できない
- ・正規の担当教員がいない
- ・ボランティアや支援者だのみ



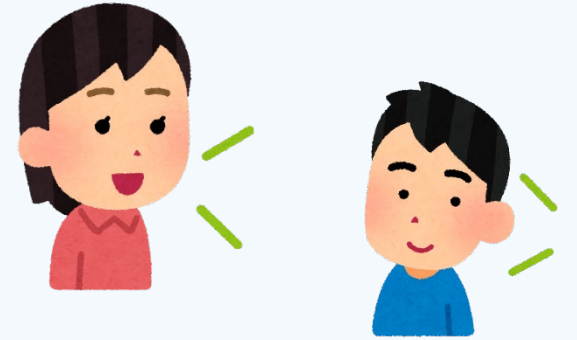
日本語指導って必要？

必要です！

子どもたちが学校で授業を受けるための大前提

先生や友だちが言っていることがわかる

自分の意見や気持ちが言える、書ける



語彙や表現を知っている

教科の用語がわかる

抽象的な概念が理解できる

読み書きができる（特に漢字！）

← **ことばの力**が必要！



子どもたちが進路を実現するためには…

高校進学は欠かせません！

長野県の公立高校後期選抜における特別配慮と特別措置

＊ 特別配慮…来日3年以内

国語→作文、社会→面接

試験時間10分延長、ルビ付き

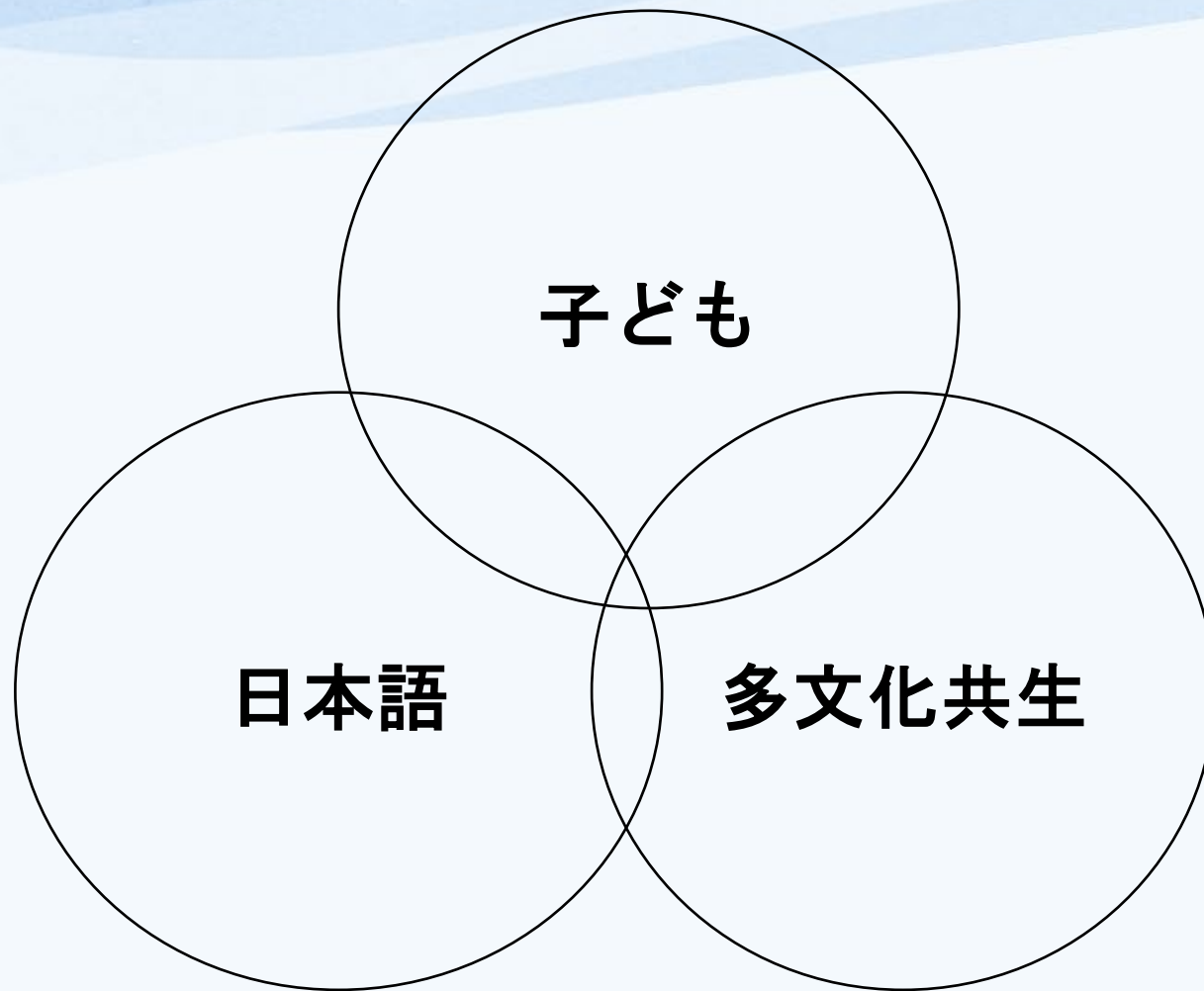
＊ 特別措置…来日6年以内

ルビ付きのみ



日本語って誰でも教えられるの？

専門の知識が必要です！



* 教員養成課程で学べるところはまだ少ない



大変なのは「日本語」だけ？

文化の
ちがい

友だち
づくり

新しい
家族

食べ物

行事



文化のちがいや環境のちがいで、
戸惑うことや我慢することが多い



このままでいいの？

彼らは日本社会に関係のない「よそ者」ではありません。
「お客さま」でもありません。

ともに日本社会を創る仲間です

提 言

私たちが考えるべきこと、今後働きかけるべきこと

松本市子ども日本語教育センター・コーディネーター
栗林恭子



課題の 整理

1. 知らない、関心がない

2. 子どもの問題を子どものせいにしていいのか

3. 善意の民間人に頼りすぎ

4. ニーズとサポートのミスマッチ



1. 知らない、関心がない

- “多様な子ども達”の存在を“知る”・・・ お隣にいるかもしれない
- 文化の違いを“知る”ことで、この課題にも“関心”が持てる
- 子どもに対する日本語教育について“知る”



2. 子どもの問題を 子どものせいにしていいのか。



「勉強につまずいてしまう」「問題行動を起こしてしまう」



すべて、その子ひとりの責任？

問題の背景に何があるか考える必要があるのでは？



ことば、文化、家庭 etc・・・ 努力をしても子どもの力ではどうにもならない





3. 善意の民間人に頼りすぎ

いつも頼りになる人がそこにいるとは限らない。
偶然のいい出会いが誰にでもあるとは限らない。
その善意が永遠に続くことはあり得ない。

持続可能 ？

……じゃない



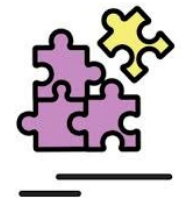


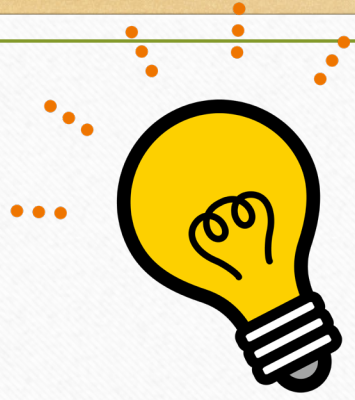
4 ニーズとサポートのミスマッチ

子どもが必要としているサポートと子どもに対する支援の手がうまく合致しない
→ せっかくの善意が当事者のニーズに合わない！



善意だけに頼っていると起こりがち





なぜ？ どうする？

“体制”が、まだまだ全く整っていないから



子どもを取りこぼさないための仕組み・体制が欲しい

その体制を「ここ」&「今」だけではなく、「あそこにも」&「未来」にも

→ **SDGs 持続可能な外国由来の子どもサポート**

それは、すべての子どもに通じる！



どんな体制が整えばいい？

子どものための
日本語テキスト
「やまのぼり」
作成中！

例えば…

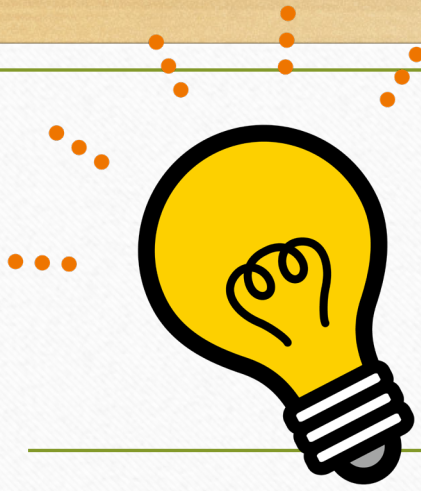
- ・母語支援者による継続的な心のケア、母語継承
- ・家族をまるごとサポート
- ・専門家による日本語指導 → 言葉に注意を払った学習支援

(教育委員会、学校との連携、ICTの活用)

さらに将来を見据えて… 大学の教育学部で外国由来の子どもについて学ぶ
科目を必修に！

受け入れ側も十分彼らのことを“知った”上で考えることが大切！





体制の拡充へ

1つの市町村にとどまらず体制を拡充！

→ 日本中どこにいても教育が保障される

従来の枠組みにとらわれない新しい発想も必要

→ 多様な学びへ → 多様な人材の育成へ



最後に・・・



One child, one teacher, one book, and one pen can change the world.
Education is the only solution. Education first. by マララ・ユスフザイ

一人の子ども、一人の先生、一冊の本、一本のペンで
世界を変えることができる。教育こそが唯一の解決方法。
教育こそが一番大切

→世界を支える大勢の子どもが育つ！



外国由来の人をめぐる 体制の整備

—子どもを含めて—

NPO法人 CTN（中信多文化共生ネットワーク）代表

佐藤 友則



子どもの教育の結果

- ▶ (写真) 怒羅権 (ドラゴン)
 - ▶ きちんとした教育を受けられなかった中国残留孤児 3 世が創設
 - ▶ 同様の若者が集まり暴力組織化。関東近辺の恐怖の的
 - ▶ 教育の未整備→ 松本や中信地区でも同様の危険の可能性
- ▶ 豪州の移民の子への教育： ルーツの言語まで丁寧に指導
 - ▶ 中国由来の子→ 英語はもちろん、中国語の指導も
 - ▶ 将来、豪州と中国をつなぐ存在として育成 「将来への投資」
 - ▶ 日本に完全に欠落している視点

どこが責任をもって進めるのか？

- ▶ 外国由来の若者の犯罪→ 警察庁と法務省
- ▶ 彼らの就労→ 厚生労働省
- ▶ 外国由来の子を呼ぶ時の在留資格→ 法務省
- ▶ 彼らへの教育の実施→ 文部科学省
- ▶ 彼らへの教育の財源→ 財務省
- ▶ 彼らのワクチン接種→ 厚生労働省

たらい回し？

- ▶ どこが責任をもって進めるのか？



60年前の言葉



pixta.jp - 38951358

- ▶ 「我々は労働者を呼んだが、やってきたのは人間だった」
マックス・フリッシュ（スイスの文学者）
- ▶ スイスほか欧州諸国： 外国人労働者の受入に長年、苦心してきた
- ▶ 同時に、彼らの力で現在まで発展を継続
 - ▶ 日本で知られていないこと／否定的なニュースばかり
- ▶ 体制整備の努力をしてきた
- ▶ コロナ禍→ 日本が外国人労働者なしでは回らない国であることを明示
- ▶ 欧州と**同じ失敗を繰り返さない体制づくり**が重要

基本法整備 & 新たな省の創設

- ▶ 多文化共生にかかる基本法を整備
- ▶ 今：抜本的な体制づくりを進めなければならない時期：教育改革も
 - ▶ カナダ2000年、ドイツ2005年、韓国2007年に整備
- ▶ 理念と方針を明記→ 関連法を制定して実施
- ▶ 同時に実施主体は「新たな省」が必要
 - ▶ 複数の省がバラバラに実施→ 大混乱
- ▶ 今年の総裁選、衆議院選挙では争点 ✕
- ▶ 次の衆議院選挙？ もはや時間はあまりない



ご清聴ありがとうございました



▶ 「国籍を問わず、全ての子どもの可能性を引き出す環境を作る」

▶ CTNの理念

▶ この実現のために、共にがんばっていきましょう！